

鳴門教育大学附属特別支援学校  
学校関係者評価報告書

(平成22年度)

平成23年3月

学校関係者評価委員会

## 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

### はじめに

本報告書は、保護者、学校評議員、大学教員、地域住民で構成された学校関係者評価委員会が、附属特別支援学校の教育活動の観察や校長ほかとの意見交換等を通じて、附属特別支援学校の自己評価の結果について評価することを基本に学校関係者評価を実施し、その結果を報告書として取りまとめたものである。

### 1 評価の目的

学校評価は、次の3つを目的として実施するものである。

- ① 学校が、自らの教育活動と学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等を評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価を実施し、その結果を公表し、内容を説明することにより、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 学校の設置者が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

### 2 評価のスケジュール

22年	8月	第1回学校関係者評価委員会
		・ 委員長の選出
		・ 学校評価の目的及び実施方法等について
23年	3月	第2回学校関係者評価委員会
		・ 自己評価書に基づき学校側から自己評価結果について説明
		・ 評価員による学校関係者評価結果の確認
		・ 学校関係者評価書の原案作成、評価員による確認・決定

### 3 学校関係者評価委員会委員（平成23年3月現在）

- 橋本 俊顕 徳島赤十字ひのみね総合療育センター所長  
片山祐己子 杉の子会会長  
外磯やよひ 元徳島県特別支援教育研究会会長  
里見 正威 地域住民・附属特別支援学校学校評議員  
藤河 一夫 社会福祉法人カイン「れもん」施設長 徳島文理大学人間生活学部非常勤講

○は委員長

#### 4 本評価報告書の内容

##### (1) 学校関係者評価結果

「学校関係者評価結果」では、評価項目①～⑤までの全ての評価項目の内容・結果を総合的に判断し、4段階評価で評価を行っている。加えて、取り組みについての「主な成果」と「改善を要する点」を抽出して記述している。

##### (2) 参考

参考では、自己評価書に掲載されている「学校の現況及び目的」を転載する。

#### 5 本評価報告書の公表

本報告書は、鳴門教育大学に提供するとともに、設置者に提出します。また、ウェブページ (<http://www.shien.naruto-u.ac.jp/>) への記載により、広く社会に公表（予定）する。

※自己評価書（学校自己評価）については、ウェブページ (<http://www.shien.naruto-u.ac.jp/>) 参照

○「学校関係者評価結果」は、次の4通りで判断します（「Ⅱ評価項目ごとの評価」の判断も同じ）。

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取組が不十分である

## I 学校関係者評価結果について

鳴門教育大学附属特別支援学校の学校関係者評価は、内容を総合して評価した結果、4段階評価中の「 B 」と判断する。

主な成果として、次のことが挙げられる。

### ○適切な指導と支援について

- ・新学習指導要領に準拠した尺度表の改訂、自立活動の個別の指導計画の新規書式の作成が行われた。
- ・個別の教育支援計画の新様式（運用マニュアル）が作成された。
- ・外部支援リソースの資産化が完成した。

### ○センター的機能の充実

- ・附属学校園のコーディネーター連絡会を立ち上げることができた。

### ○研究及び研究成果の発信

- ・平成21年度～22年度にかけて、「社会性をはぐぐむための授業づくり～自立活動を主とした授業研究をとおして～」というテーマで研究を行い、平成23年2月11日に開催した研究発表会でその成果を発信した。

### ○実施教育の充実

- ・新しい教育実習のガイドライン及び評価システムを作成し、実施することができた。

### ○組織マネジメントの効果的な導入

- ・教職大学院への派遣教員から提案された組織マネジメントの手続きに沿って、企画管理委員会の構成メンバーを中心として、本校の平成23年度～25年度にかけての経営計画を作成することができた。

主な改善を要する点として、次のことが挙げられる。

- 評価指標となっているアンケートについて、8割を達成指標としている項目が多いが、残り2割の少数意見を十分に把握する必要があるのではないか。
- 自己評価の評価結果にC及びDの項目が見られる。この項目については、重点的に改善努力を行う必要がある。
- 今後の学校の方向性として、県立の特別支援学校とは違った附属なりのアピールポイントを探っていく必要があるのではないか。（研究の発信方法等について）
- センター的機能について、小・中学校では、グレーゾーンの児童生徒への指導支援へのニーズが高い。  
ニーズに合わせたセンター的機能の果たし方を検討してほしい。（わくわく教室の広報等）
- 授業研究等を行う場合、保護者も参観できるようにしてほしい。
- 指導について、外部の専門家から、アドバイスを受けることができるようなシステムができればいいのではないか。

## 参考

### 学校の現況及び目的

#### 1 現況

(1) 学校名 鳴門教育大学附属特別支援学校

(2) 所在地 徳島市上吉野町2丁目1番地

(3) 学級等の構成

小学部 3学級（複式）

中学部 3学級

高等部 3学級

(4) 児童生徒数及び教員数（平成22年5月1日）

小学部18人，中学部18人，高等部24人 児童生徒数60人

教員数29人（正規教員）

#### 2 目的

##### (1) 目的・使命

本校の目的は、附属特別支援学校校則第1条において「知的障害及び自閉症の児童生徒に対して、小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を施し、あわせて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」学校、中学校及び高等学校の要請に応じて、幼児、児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努める」と定めている。

また、校則第1条には「鳴門教育大学（以下「本学」という。）における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属特別支援学校として、次のような使命をもった学校でもある。

①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究学校としての使命

②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地峡委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命

③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

##### (2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている目的の達成のため、学校として、また学部としてそれぞれ次のような教育目標を掲げている。

①明るい性格と豊かな人間性を育てる。

②日常生活に必要な習慣や態度を養う。

④強靱なからだと意志を養う。

⑤集団生活への適正能力を育てる。

（小学部）

①明るくやさしい心を育てる。

③生活を高めるため、知識・技能・態度を育てる。

②日常の基本的な生活習慣や態度を養う。

- ③言語や数量などの基礎的な能力を養う。
- ④じょうぶな身体をつくる。
- ⑤校内を主とした集団での生活に参加できるようにする。

(中学部)

- ①身体の健康及び思春期の不安定さに配慮しつつ、生徒自身が心理的に安定した状態で安全な生活を送る。
- ②自分や他者にとってよりよい結果を得るために、行動する。
- ③認知・学習、運動・体力のそれぞれの知識や技能の向上を図るとともに、場面や状況に合わせた態度の育成を図る。
- ④個々の「参加」の質を高めるために、学習で身につけた知識・技能・態度を実際の家庭生活・地域生活・労働生活に発揮する。

(高等部)

自立した社会生活に必要な知識や技能を習得し、家庭生活や職業生活の中での実践力を身につける。

- ①健康な身体と強い意志力を育てる。
- ②将来の社会生活に必要な生活技能や言語、数量に関する能力を養う。
- ③進んで働く意欲と集中力仕事に対する責任感を養う。
- ④集団生活を通して、青年期の豊かな心情と社会性を育てる。
- ①自ら楽しむ豊かな余暇生活を創造する力を養う。

(3) めざす子ども像

本校は、本校では、学校として、また、学部としての教育目標に基づき、それぞれ次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- 明るく、仲よくできる子ども
- じょうぶで、元気な子ども
- よく働く子ども
- 力いっぱいがんばる子ども

(小学部)

- やさしい子
- 元気な子
- 自分からする子
- がんばる子

(中学部)

- 健康な身体と健全な心を持つ生徒生徒
- 周りの人に自分から意志を伝え、係わりあえる生徒
- 学びや体験をとおして「分かる」「できる」「こうすればいい」ことを自分から見つけられる生徒
- 自分の興味や関心、楽しみを広げ、様々な生活場面に参加できる生徒

(高等部)

- 自分と仲間を大切にする生徒
- 何事にも生き生きと取り組む生徒
- 意欲的に働く生徒

○自ら生活を楽しむ生徒

(4) 平成22年度重点課題(評価項目)

①適切な指導と支援

小・中・高の一貫性の確立  
教育課程・内容の検討  
個別の教育支援計画の充実  
個別の指導計画の充実  
教員の授業力向上

②センター的機能の充実

大学との連携強化  
教育相談及び講師ができる教員の育成  
今後のセンター的機能の方向性の検討

③研究及び研究成果の発信

社会性をテーマとした研究発表  
23年度以降の研究の方向性の検討

④実地教育の充実

実地教育に関する改善プログラムの作成

⑤組織マネジメントの効果的な導入

学校評価と教員評価の連動  
運営方針及び運営計画の作成及び周知徹底  
校務運営の効率化